

書評

朝日新聞社発行

第一次地球革命

〔ローマクラブ・レポート〕

アレキサンダー・キング
ベルトラン・シュナイダー 共著
田草川 弘 訳

評者 高城敏美*

Toshimi Takagi

ローマクラブは、政府、公的な機関から自由な立場で、長期的な観点から人類の未来をグローバルな視点で考えるという共通の関心のもと、さまざまな文化、思想、職業、専門の人々の集まりである。同クラブが最初にまとめた報告書は1972年の「成長の限界」で、グローバルな地球的問題群の中から数量化できる要素を取り上げ、それが相互に関連しながらどのような影響を世界経済に及ぼすかを予測した先駆的な研究であった。以来、同クラブは18編の報告書を出している。

最初の報告書から20年後の現在の地球の状況を把握するため、各国の同メンバーにアンケートを送り、現状の報告と分析を求めた。その後、主だった17人のメンバーが会合し、アンケートの結果を話し合い、その成果をまとめたものが本書「第一次地球革命」である(本書解説による)。本書は原題が“The First Global Revolution”で1991年秋に出版されたものの訳書である。執筆者の一人キング氏は当時ローマクラブ議長、もう一人がシュナイダー事務局長である。

本書では現代世界の状況を「第一次地球革命」と呼ぶ。それは、世界中で起こっている変化は社会、経済、技術、文化、倫理的な要因をすべて巻き込んだ大きな地球規模の変革とみているからである。この変化から生じる地球規模の諸問題を「地球的問題群」と呼ぶ。それらは、個別にはかなりよく知られているものもあるが、お互いにどの様に関連し、影響しあっているかを分析し、地球的問題群の実態を明らかにし、また、その問題の解決の考え方と方法を提言しようとしている。

本書は、第1部「地球的問題群」、第2部「地球的問題の解決方法」の2部構成であり、主な目次と概要は次のようである。

第1部 地球的問題群

第1章 変化の嵐：世界で生じている政治的、経済的、国家的変化、都市の拡大や開発、人工爆発、環境問題、先進技術の変化等についてレビューし、分析している。たとえば、市場(自由経済)メカニズムが極めて効率的であるが、それだけでエネルギー、環境、基礎研究、公正な資源配分などの問題に対処することはできない。長期的な観点から適切な施策を実施していく必要があると言う。また、環境問題として、有害物質の環境への拡散、湖沼の酸性化と森林破壊、フロンによるオゾン層の破壊、地球温暖化を分析している。それらは地球的な規模で広がり、個々の国の対応能力を越えていることを指摘する。

第2章 緊急を要する問題：第1章で列記した問題のうち、特に緊急を要する問題として、人口増加や消費量の増加による「人間活動」の拡大、地球温暖化とエネルギー事情、地球の食糧安全保障、情報化社会への変化等を挙げ、具体的な例をあげながら分析している。

第3章 求心力の失われた社会：かつては社会を統合し、個人を社会の規範に従わせていた価値観が次第に失われつつあるという。また、20世紀を支配した2つのイデオロギーの対立が崩壊し、対立に対処する共通の目標(求心力)がなくなってきた。公害、飢饉、失業、…等、いずれも人類の生存を脅かす問題であるが、共通の目標として連帯を呼び覚ます程には認識されていないという。また、民主主義の利点と問題点を分析し、緊急を要する地球的問題群の解決には活性化と素早い変革への対応を必要としているという。

第4章 社会の病：価値観やより所の消失、環境の劣化、低開発と貧困など、転換期の変化の影響は広い地域や社会に及んでいるという。

* 大阪大学工学部産業機械工学科教授
〒565 吹田市山田丘2-1

第2部 地球的解決方法

第1章 三つの緊急事項：地球的解決方法を考えるとき、緊急対応が必要な分野として、軍需経済から民需経済への転換、地球の温暖化とエネルギー問題、開発問題の3つを挙げ、それぞれの状況、問題点を分析し、いくつかの提言をしている。

第2章 政治のしくみ：それは広い意味で社会システムを動かしていくメカニズムをいう。社会システムは複雑化し、政治のしくみは必ずしもよく対応できていないという。その問題点と原因を分析し、いくつかの提言を行っている。

第3章 「解決」へのカギ：急速な変革への不適應によって「地球的問題群」が生じているので、個人や社会が変化への適應能力を持つことが求められている。このためのカギとなるものとして、「学習」、「科学技術」、「マスメディア」を挙げている。それぞれの項目について、分析、提案がある。

第4章 価値観を変える：問題が地球規模になれば新しい認識と國際倫理が求められることを順をおって述べている。

本書は地球規模の問題に直面している現在の個人または団体の考え方、価値観がいかにあるべきかを事例を挙げて、分析し、提言した「良識の書」と言える。

後援行事ごあんない

「第2回地球環境産業技術動向調査報告会」

——地球環境関連技術シーズ発掘のために——

- 1) 主催 (財)地球環境産業技術研究機構、新エネルギー・産業技術総合開発機構
- 2) 後援 関東通商産業局、北海道通商産業局、近畿通商産業局、(財)関西経済連合会、日本機械工業連合会、(財)日本化学会、(財)化学工学会、エネルギー・資源学会
- 3) 日時・場所
 - ①東京…平成4年10月7日(水) 13:30~17:00
化学会館講堂(東京都千代田区神田駿河台1-5, TEL 03-3292-6162)
 - ②札幌…平成4年10月14日(水) 13:30~17:00
札幌かでの2.7大会議室(札幌市中央区北2条西7-1, TEL 011-231-4111)
 - ③大阪…平成4年11月16日(月) 13:30~17:00
千里ライフサイエンスセンタービル大ホール(豊中市新千里東町1-4-2, TEL 06-873-2000)
- 4) 定員 東京…150名 札幌…150名 大阪…250名
- 5) 参加費…無料(但し、希望者には資料集 5,000円)

〔報告内容〕

- | | |
|--|---|
| ①触媒化学的なCO ₂ 低減策およびCO ₂ 低減策のまとめ | ⑤産業分野におけるCO ₂ 対策技術に関する評価手法 |
| ②電気化学・光化学的なCO ₂ 低減策 | ⑥地球環境関連研究の重点分野の動向 |
| ③CO ₂ 排出量をベースとした既存の産業技術の評価 | ⑦自然エネルギーによるCO ₂ グローバルリサイクルシステムの可能性 |
| ④バイオ的方法によるCO ₂ 低減策 | |

※東京は①②③⑤⑦、札幌は②④③⑥⑦、大阪は①④⑤⑥⑦の報告を行う。

■ 問い合わせ先

財団法人 地球環境産業技術研究機構 担当・企画調査部 小林、大江
〒600 京都市下京区塩小路通烏丸西入(新京都センタービル4F)
TEL 075-361-3611 FAX 075-361-5607